



古志原小学校だより

令和5年度No.12

11月10日

(文責 校長 小林 敏朗)

えがおいっぱい

10月終わりから、本校でもインフルエンザによる欠席者が多くなり、学級閉鎖や学年閉鎖の措置をとりました。学校では、今後もコロナを含め感染症対策として換気や手洗い等に努めていきます。

10月18日(水)~20日(金)の3日間、第四中学校の生徒さん6名(1日に2名ずつ)が職場体験に本校に来ました。職場体験では、資料の作成や体育館扉のペンキ塗り、給食の準備や片付けなどを行いました。どの生徒さんも真剣に取り組んでいました。その中で19日(木)に来校した2名の生徒さんは、こちらが何も指示をしていないのに、主に職員が使う男子トイレの掃除を自主的にやっていました。それも、とても丁寧に汚れを取ったり、便器を磨いたりしていました。その姿を見て、自分たちで自主的にそのような行動ができることをとても感心しました。

みんながんばりました！古志原っ子発表会！

10月27日(金)に古志原っ子発表会を行いました。当日は、お忙しい中、保護者の皆様に多数お出かけいただき、また温かい拍手を送っていただき、ありがとうございました。子どもたちも、保護者の皆様からの温かい拍手がうれしかったことと思います。

午前中は、子どもたち同士でお互いに見合う時間を設定しました。ここ数年、コロナ禍の影響もあり、オンライン配信による学級での観賞はしていましたが、体育館に一堂に会し見合う機会は設けていませんでした。今年度、午前中にお互いに見合う様子を見ていますと、発表している子どもたちも見たり聞いたりしている子どもたちもとても楽しそうでした。見たり聞いたりしている子どもたちもリズムに合わせて手拍子をしたり、発表後には大きな温かい拍手を送ったりして、全校みんなで創る発表会となりました。





4年生



5年生



6年生

午後の部の開始時、あいさつでもお伝えしましたが、この発表会には2つの意義があると考えています。それは、この発表会が「憧れをもつ場」「成長を感じる場」ということです。一つ目の「憧れをもつ場」というのは、自分より年上の学年の発表を見ながら「すごいな」とか「自分も〇年生になったら、こんなことをしてみたいな」と憧れをもつ、未来の自分をイメージするということです。(WBCで大谷翔平選手は「今日一日だけは憧れを捨てて…」と言いました。) 子どもたちにとって、この憧れをもつということは、自分自身を成長させるためのとても大きなエネルギーになると思っています。二つ目の「成長を感じる場」についてです。発表会当日のように、多くの方に見ていただくと、子どもたち自身のモチベーションはぐ〜んと上がります。発表に向けて、それまでの自分より一段上へ高めていこうとがんばります。やり終えたときに感じる達成感や見てくださった方からのお褒めの言葉で自分への自信が生まれます。これは本校が取り組む「自己肯定感」にもつながります。このような意義から、子どもたちにとって、とても大切な行事だと考えています。

最後に、翌週10月30日(月)に6年生のホワイトボードには次のように書いてありました。きっと、子どもたちはうれしかったことと思います。そして、その6年生は他の学年に手紙を書いていた。発表会から続いて、このような取り組みができることも発表会の魅力の一つなのでしょうね。

